

ラトビア児童書選書リスト凡例

2011年12月
作成者 黒沢 歩

1. ラトビアの児童書にかかる蔵書につき、気づいた点、以下の通り。なお、かかるリストは、以下の点を考慮して作成した。

- (1) 現在の蔵書150冊のうち、およそ4分の3近くを、ソ連時代に出版された書籍が占め、その多くが簡易なペーパーバックである。
- (2) 全体として広く薄く網羅されている観があり、将来的に新旧の代表的な作家(例として Kārlis Skalbe, Ojārs Vācietis, Imants Ziedonis, Juris Zvirgzdiņš, Inese Zandere, 絵本画家 Anita Paegle ほか、主な受賞作家)の作品が揃えられるならば、蔵書の幅が厚みを増し、ラトビアの児童文学の全容を体系的にとらえられるものとなる。
- (3) 2000年以降発行の蔵書について、学校用に簡易に装丁された安価なシリーズ(Zvaigzne ABC 発行の Lasītprieks)が比較的多い。右は学校の必読書に類され同国の文学を代表することから、随時イラストや装丁等に趣向を凝らして再版されており(例として Imants Ziedonis 著 Krāsainās Pasakas)、同国の絵本原画及び装丁の水準を鑑みて、同作品のハードカバーも随時揃えるとなお豊かなものとなる。
- (4) 比較的近年の研究書、辞典類、さらに、近年出版が増えているバルト三国を含めた諸外国の翻訳書籍も加えたならば、理解の幅を広げ比較としても興味深いことと考える。

2. 選書リスト作成過程で得た情報、次の通り。

(1) 書籍の入手事情

同国の児童文学史において重要な書籍のうち、同国成立時期からソ連時代以前に成立した書籍は、現在は絶版となり古本等で探す以外に入手困難なものが少なくない。また、比較的近年の書籍であっても、版数が多くないため、一旦売れ切れとなった場合にしばしば再版されず、入手困難な場合が少なくない。

(2) 主な情報の入手先

本件調査にあたり、適切な助言や迅速なご協力を頂いた同国の各機関及び担当者は次の通り。

・ラトビア文化省 Ministry of Culture of the Republic of Latvia 文学担当者 Liga Buševica (ラトビア文化省作成の「黄金のラトビア文学百選」リストの提供、他の関係機関担当者の紹介)

・ラトビア文学センター center@literature.lv

(関連資料及び冊子の送付、文学賞及び翻訳出版等の文学の動向をめぐる情報の提供)

・国立図書館児童文学センター Children's Literature Centre of the National Library of Latvia, berni@lnb.lv トレチャコヴァ・センター長 Silvia Tretjakova

(近年出版された児童書のリスト及び概要を随時作成及びその提供)

・ラトビア大学人文学部 スティカーネ教授 Prof. Ilze Stikane

(ラトビア児童文学研究の第一人者、近年の研究調査結果の提供)

その他の同国児童書に関連する機関のアドレス等については、ラトビア文学センター作成の冊子 Children's Literature in Latvia 最終ページを参照されたい。

(3) 書籍の入手方法

出版物データの調査に際し参考にした同国の出版社及び書籍販売会社のホームページでは、ネット上での販売送付が可能である。主なアドレスは下記の通り。

①出版社のホームページ

Janis Roze Bookstore

<http://www.jr.lv/en/index.html;jsessionid=1F333BCADF8788F1D6D31357B818A6D1> (註) 筆者自身も日本から随時利用。ネット注文にて10日間前後で国際郵便で届けられる。自社以外の在庫書籍も取り扱っている。

Liels un Mazs (児童書専門出版社、各種賞を多数受賞)

<http://www.lielsmazzs.lv/index.php/en/gramatas/>

Valters un Rapa <http://www.valtersunrapa.lv/apgads/?l=en&page=books&id=325>

Neputns <http://www.neputns.lv/en/shop.php>

Jumava <http://www.jumava.lv/lv/catalog/originalliteratura/proza>

②オンライン書店

Jaunas gramatas <http://www.jaunasgramatas.lv/>

Gramatu klubs <http://www.gramatuklubs.lv/lv/>

3. ラトビア児童書資料の特徴

(1) 代表的な作家のほとんどが、児童向け作品のみを書いているわけではない。そのためか、同国の児童文学史に特化した書籍資料及び研究書は(リストに記載したものを除き)見つけられないことから、同国の文学史を広く網羅する資料が児童文学の参考書となる。

(2) 同国の児童書出版は、暮れのクリスマスから春先の復活祭に向けて贈答用に特に活発な傾向が強く、本リスト完成後にも新たな児童書出版が複数見られるところ、随時フォロー、刷新されると時代に即したものとなるであろう。

以上